

## “自分で選んで” “自分で決めて” ～授業改善は新たなステージへ！～

7月5日(金)に第2回ICT教育推進委員会を持ちました。今回は、中村学園大学 山本 朋弘教授から「AI時代の新たな学びの姿とは」というテーマで御講話いただく機会を得たため、各校の管理職、学力向上担当者等にも対象を広げ「拡大」開催としました。

「10年後、今の中学生が社会に出て就職したとき、どんなツールを使って仕事をしていると思いますか？子ども達は、社会が変わって行くことに対して柔軟に対応できないといけません。それを支援する教師も柔軟に変化に対応し支援をしていかねばなりません。授業が変わるのは当然です。『教師主導から子ども主体の学びへ』、『同じ内容を同じ方法で学ぶ一律一斉の指導から、子どもが“自分で選んで” “自分で決める” 自律した学びへ』と変えていきましょう。」と、山本先生からは、本質的な教育理念に関わる重要なメッセージを伝えていただきました。

参会者も「これからの時代を生き抜く子ども達のことを考えて、ICTを含めた個別最適な学びの必要性を改めて感じる事ができた。」「目的は、子どもが今からの時代を生きる上で必要となる学力を身に付けることなので、そこを教師が見越した上で、今からの時代を生きていく上で必要な学び方を子どもに提案していく必要があると思う。」等、授業改善への意欲を高めて頂いています。

研修内容を校内で共有していただき、小郡市が目指す「未来に向かい 未来を拓く力」を全学校で育んでいきたいと思ひます。

小郡市教育長 秋永

### 演題 「AI時代の新たな学びの姿とは」 中村学園大学教育学部 教授 山本朋弘 様

山本教授の講話では、今後求められる教育について、様々なアドバイスをいただきましたが、今回は、授業改善のポイントに絞って紹介します。

#### 【教師の教育観の転換について】

○同じ内容を同じ方法で一斉に「教える」ことから、学習者が多様な内容・方法から自分で選んで決定しながら「学ぶ」授業に転換する必要があります(右図参照)、新しいスキルを入れる(リスクリング)のためには、古いものを捨てる(アンラーニング)から始めなければいけない。

○小郡市が目指す「主体的・対話的・創造的に学び深める」の『創造的』は小郡市の特長でもあるため、地域とつなぎ地域の課題を解決するための「新たな価値」を生み出す具体的なイメージを学校内で議論・共有してほしい。

#### 【授業実践について】

○学習規律と自分にフィットした学びの両立が大切。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図るためには、教育のプロとして資質能力向上につなぐための教材研究をまずはしっかり行うことが重要である。また、自己調整力を働かせるためには、全ての学年、全ての教科で様式を統一させた振り返りを行うことが大切。



▲教師主導から子供主体の学びへの移行  
(山本教授のプレゼンより)

#### 個別最適な学び・協働的な学びでの要点整理

##### 【個別最適な学び】

- ・自分で選んで、自分で決めて  
児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性
- ・個々のペース、授業以外での活動
- ・学習履歴の活用、見直しを持ち・学びを振り返る

##### 【協働的な学び】

- ・各自の考えをしっかりと持たせる
- ・座学からの脱却、他者参照・静かなる協働
- ・話し合いや共有から、個々の考えの深まりがゴール

▲個別最適な学び・協働的な学びでの要点整理  
(山本教授のプレゼンより)

